

田代岳「欧州の視点で読み解くマーケット」 更新日：5月18日



米系のシティバンク、英系のスタンダード・チャータード銀行と外資系銀行にて、20年以上、外国為替ディーラーとして活躍。その後、独立し現在は投資情報配信を主業務とする株式会社 ADVANCE 代表取締役。

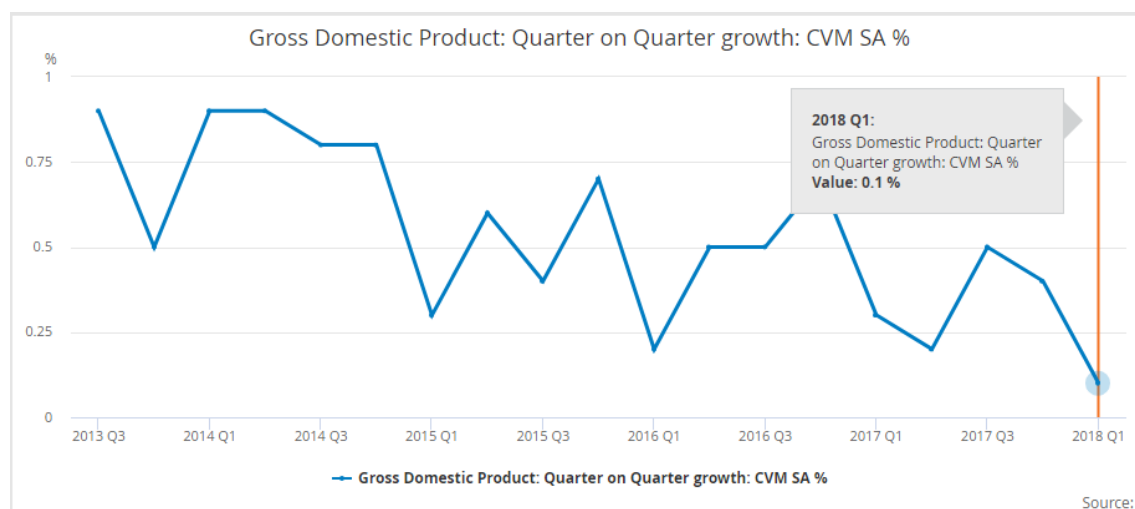
来週は英国指標が目白押し、ポンドの動きに注目

5月10日のBOEのMPCでは金融政策を7対2で据え置きました。ここのところの弱い経済指標が出るまでは5月の利上げが予想されていましたが、1〜3月期の成長率の鈍化は一時的としながらも、追加の情報を待つというスタンスに委員会の過半のメンバーが判断したようです。

4月19日発表の英小売売上高は前月比-1.2%、前年比1.1%と予想の-0.5%、2%を下回りました。

4月27日発表の英GDPは前期比0.1%、前年比1.2%と予想の0.3%、1.4%を下回りました。議事要旨によると成長率が衰えた原因は、大雪の影響、小売などの需要の低下としており影響は一時的としました。

英GDP 英統計局HPより

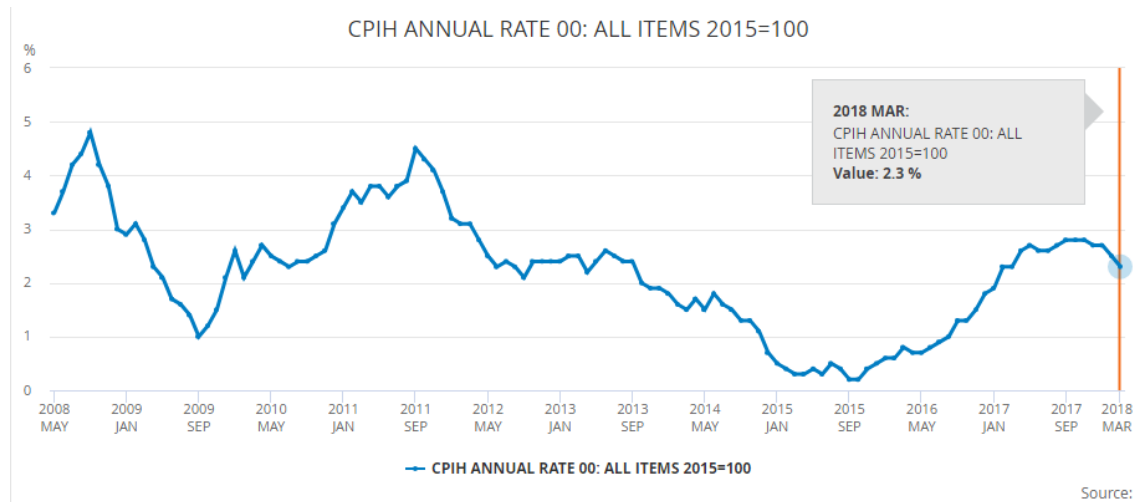


同時に発表されたインフレーションレポートでは2月時点と比べて2018年の成長率を1.8→1.4%、2019年の成長率を1.8→1.7%、2020年の成長率を1.8→1.7%に下方修正しました。

物価見通しも2018年は2.4→2.2%、2019年は2.2→2.1%、2020年は2.1→2%に下方修正しました。

物価見通しについてはポンド安の影響が鈍化したことをあげています。

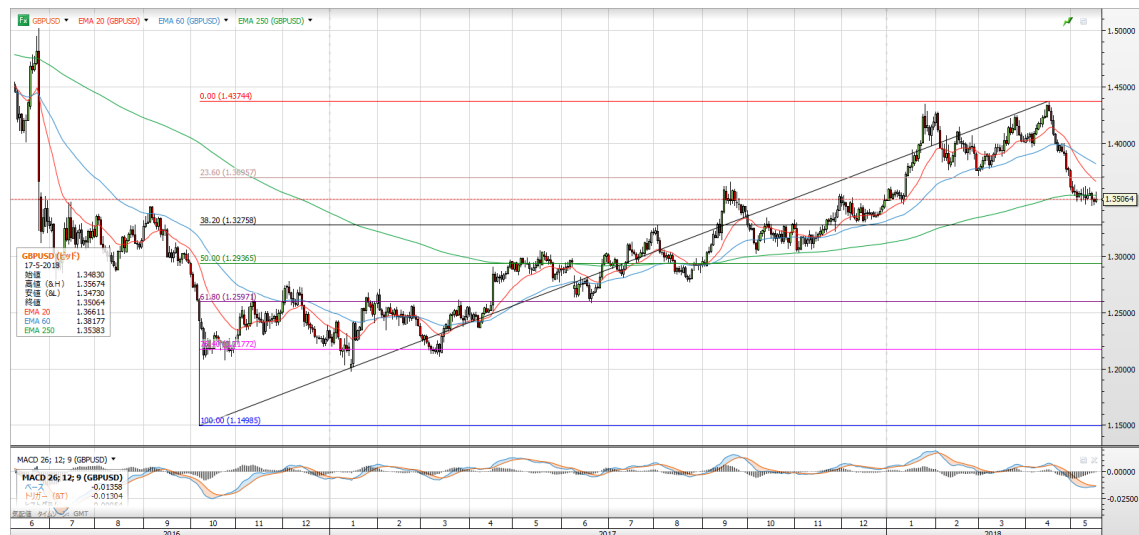
英 CPI 英統計局 HP より



最近までの BOE のスタンスは年 1~2 回の利上げペースでしたが、インフレレポートなどを経て市場では年 1 回のペースでの利上げを織り込みつつあるようです。

英中銀のインフレ目標は 2%±1%ですが、英インフレ率は昨年秋の 2.8%から 2.3%に低下してきています。(グラフ参照)

ポンドドル日足



ポンドドルは 4 月 16 日 1.4374 の高値を示現した後は 1.3450 付近まで下落しています。

下落が続きましたが 5 月 11 日にカーニーBOE 総裁が年末までに利上げをする可能性とコメントしたことで下げ止まりました。

下落トレンドはまだ継続中と見ていますが、来週は 22 日 CBI 産業受注動向、23 日消費者物価指数、24 日小売売上高、25 日 GDP と経済指標が目白押しで、数字次第ではどちらにも振れる可能

性があります。

現状は 250 日移動平均線の位置する 1.3540 付近をはさんだ展開ですが、サポートレベルとしては、1.3275 付近（2016 年 10 月安値 1.1498～2018 年 4 月高値 1.4374 の 38.2%戻し）、1.2935 付近（50%戻し）が予想されます。

レジスタンスとしては 1.37 付近（23.6%戻し、および今年 1～4 月までの安値レベル）が重要で、ここが上抜けしないようであれば、戻り売りのレベル。上抜けした場合は一旦下落トレンドは終了し 1.4 付近への反発の可能性があります。

参考

BOE ホームページ <https://www.bankofengland.co.uk/>

英統計局ホームページ <https://www.ons.gov.uk/>

【本レポートについてのご注意】

- 本レポートは、投資判断の参考となるべき情報提供のみを目的としたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。
- 本レポートは、作成時点において執筆者およびサクソバンク証券（以下「当社」といいます。）が信頼できると判断した情報やデータ等に基づいて作成されていますが、執筆者および当社はその正確性、完全性等を保証するものではありません。また、本レポートに記載の情報は作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。
- 本レポート内で示される意見は執筆者によるものであり、当社の考えを反映するものではありません。また、これらはあくまでも参考として申し述べたものであり、推奨を意味せず、また、いずれの記述も将来の傾向、数値、投資成果等を示唆もしくは保証するものではありません。
- お取引は、取引説明書および約款をよくお読みいただき、それらの内容をご理解のうえ、ご自身の判断と責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者および当社は責任を負いません。
- 本レポートの全部か一部かを問わず、無断での転用、複製、再配信、ウェブサイトへの投稿や掲載等を行うことはできません。